

研究・調査報告書

| 報告書番号 | 担当 |
|--|-------------------|
| 283 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学 |
| 題名 (原題/訳) | |
| Alcohol attributable burden of incidence of cancer in eight European countries based on results from prospective cohort study. アルコールのがん発生負荷について；ヨーロッパ8カ国の前向きコホート研究から | |
| 執筆者 | |
| Schütze M, Boeing H, Pischon T, Rehm J, Kehoe T, Gmel G, Olsen A, Tjønneland AM, Dahm CC, Overvad K, Clavel-Chapelon F, Boutron-Ruault MC, Trichopoulou A, Benetou V, Zylis D, Kaaks R, Rohrmann S, Palli D, Berrino F, Tumino R, Vineis P, Rodríguez L, Agudo A, Sánchez MJ, Dorronsoro M, Chirlaque MD, Barricarte A, Peeters PH, van Gils CH, Khaw KT, Wareham N, Allen NE, Key TJ, Boffetta P, Slimani N, Jenab M, Romaguera D, Wark PA, Riboli E, Bergmann MM | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) | |
| BMJ. 2011 Apr 7;342:d1584. | |
| キーワード | |
| アルコール、がん、コホート研究、ヨーロッパ | |
| 要 旨 | |
| <p>目的： コホート研究から求めた相対危険度に基づき、ヨーロッパ8カ国における現在・過去の飲酒のがんの発生に寄与する負荷を算出する。</p> <p>方法： 飲酒経験のデータを含む一般集団における前向きコホート研究を組み合わせた。8カ国（フランス、イタリア、スペイン、イギリス、オランダ、ギリシャ、ドイツ、デンマーク）が参加するがんと栄養に関する前向き研究であるEPIC study を用いた。対象者は主に37-70歳の男性109,118名、女性254,870名である。EPIC参加者から現在・過去飲酒者のがん発生の相対危険度をハザード比で示した。ハザード比は、飲酒量別に、国別・性別に計算した。許容量（男性で1日2杯24g、女性で1日1杯12g）を超える飲酒の寄与割合とアルコールが寄与した年間の癌発生を求めた。</p> <p>結果： これらの国々では、現在・過去飲酒者は、男性では10%(95%CI 7-13%)、女性では3%(95%CI 1-5%)が飲酒のがんの発生に寄与していた。部位別では、男女それぞれ、上部消化管44%(31-56%)、25%(5-46%)、肝臓33%(11-54%)、18%(-3-38%)、大腸17%(10-25%)、4%(-1-10%)であり、女性の乳がんは5.0%(2-8%)であった。2008年において、飲酒とがんの発生に因果関係があると仮定すると、許容量を超える飲酒の寄与割合は、男性で178,578症例中33,037例、女性で397,043症例中17,470例であった。</p> <p>結論： 西ヨーロッパでは、特に許容量以上の摂取で、相当数のがんが飲酒に起因する可能性がある。この結果は、がんを減らすためには、飲酒量を減らすか、飲まないように努める必要があることを示している。</p> | |